

臨時特集 主要資材の価格動向

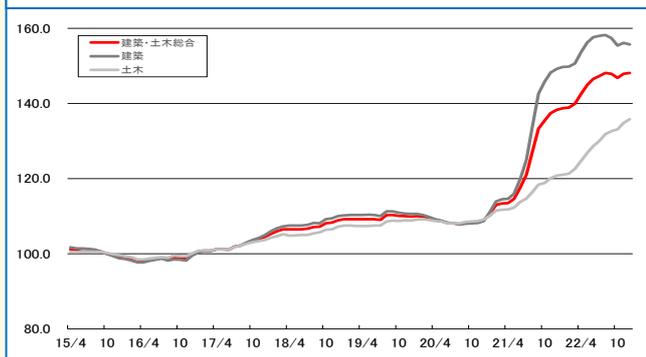
建設資材価格指数が2カ月連続の上昇 ~建築指数は下落も土木指数は上昇続く~

1. 建設資材価格指数 (https://www.zai-keicho.or.jp/service/build/price/index.html)

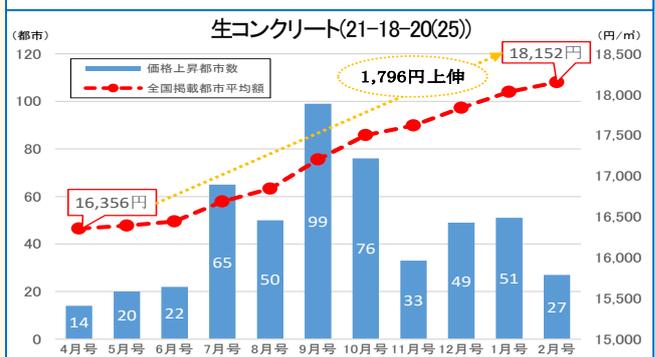
当会12月調査に基づく建設資材価格指数(全国・2015年度平均=100)は、建築・土木総合で148.1と前月比+0.2ポイントとなった。総合指数が前月を上回るのは2カ月連続。9月調査から2カ月連続で下落したが、その後は再び上昇に転じており、指数は高い水準で一進一退の動きとなっている。指数を建築、土木別にみると、建築指数は一般建築用木材が下落した影響により-0.4ポイントと下落。一方、土木指数は生コンクリート、アスファルト混合物等の騰勢が続いており1.0ポイントの上昇となっている。建築と土木で指数の傾向に差が生じているが、土木指数は直近28カ月連続で上昇しており、結果的に総合指数が高止まりする要因となっている。

最新の1月調査(「積算資料」2月号)でも、依然として生コンクリートの騰勢が続いており、27都市で市況が上伸している。また、今年度通期でみると「積算資料」掲載の500都市中、85%に当たる425都市で1回以上の市況上伸が確認されている。先行きについても、足元ではセメントの大幅値上げが打ち出されており、生コンクリートは引き続き全国的に強基調で推移する公算が大きい。

建設資材価格指数(全国・2015年度平均=100)



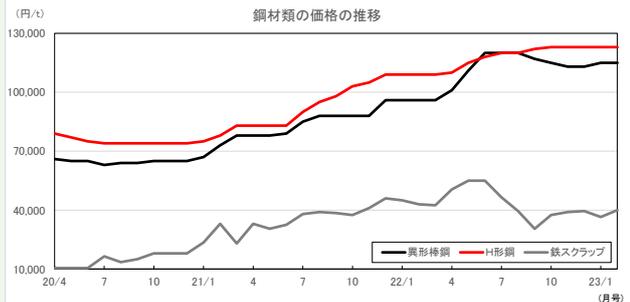
積算資料 2022年4~2023年2月号 全国生コンクリート市況動向



2. 2月号の主な資材の動向 (東京地区)

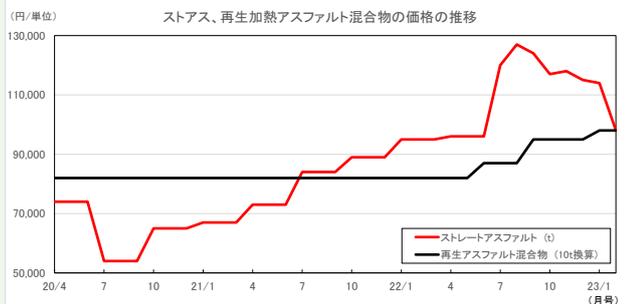
鋼材	単位	価格(円)	先行き
異形棒鋼(SD295 D16 ②)	t	115,000	➡
H形鋼(200×100×5.5×8 mm ②)	t	123,000	➡
鉄スクラップ(H2)	t	40,000	➡

鉄スクラップは堅調な海外需要を背景に相場は反騰し、前月比は当たり3,500円上伸。一方、異形棒鋼とH形鋼は不需要期を迎え価格交渉は停滞感が漂う。現況、先行きとも横ばい推移。



舗装用材	単位	価格(円)	先行き
ストレートアスファルト(針入度60~80)	t	98,000	⬇
再生アスファルト混合物(再生密粒度13)	t	9,800	➡

ストレートアスファルトは原油相場下落により前月比t当たり1万6,000円下落。再生アスファルト混合物は横ばいで推移しているが、ストアスの急落により先行きは不透明感が尠い。



石油製品	単位	価格(円)	先行き
軽油(ローリー)	kℓ	118,000	⬇
ガソリン(スタンド レギュラー)	ℓ	149	⬇

軽油は前月比500円続伸も原油相場は軟調で先行き弱含み。



木材	単位	価格(円)	先行き
杉正角材(KD)	m³	95,000	➡
米松平角材(KD)	m³	110,000	➡
コンクリート型枠用合板(無塗装品ラフン 12×900×1800 mm)	枚	2,200	➡

木材は荷動きに精彩を欠くものの、流通在庫の調整が進行。市況の下落傾向も一服し、価格は横ばいで推移。

